



# あした 未来へつなぐ

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

石勝線列車脱線火災事故から五年。  
五月二十七日を「安全再生の日」に制定し、  
鉄道会社に「安全」を再確認します

**J**

R北海道では、「石勝線列車脱線火災事故」から五年が経過した今年、この事故を起こした五月二十七日を「安全再生の日」として制定しました。

これは、鉄道会社として「一番重要な「安全」を問われ、

危機的な状況に陥ることとなった原点をいつまでも忘れず、安全再生に向けて、「JR北海道安全の再生」の趣旨と各職場の状況が同じ方向で進んでいるかを確認することを目的としています。今回は、各職場で実施し

た安全再生のための取り組みを紹介し、

「安全再生の日」の当日、島田社長が札幌市手稲区にある札幌運転所を視察しました。多くの運転士・検修社員が所属する札幌運転所では、主体的に考える社員の育成や他の職場見学、意見交換会を通して社員の視野を広げるなど、人材育成にも力を入れていま

していただきました。

また、線路の安全管理を担う札幌保線管理室では、「安全を最優先とする業務の進め方」と「保線業務で守るべきコンプライアンス」についてのディスカッションを実施。“絶対に守るべき安全の基準を維持しているか？”“ミスがあることを前提にバックアップを図っているか？”など、今一度自分たちの業務を振り返りました。あわせて、コンプライアンス教育用DVDを活用しながら、コンプライアンスについても熱心な議論を行いました。

今後も「保線安全の日（九月十九日）」や「トンネル安全の日（十二月二十八日）」など、毎年実施している取り組みはもちろん、安全最優先の鉄道会社再生に向け、社員一同、安全への意識をさらに高めるとともに、そのための取り組みを確実に推進していきます。



「安全再生の日」の様子。上/札幌運転所、下/札幌保線管理室

石勝線列車脱線火災事故を振り返る内容のDVDを視聴した後、安全をテーマに島田社長と札幌運転所社員との「膝詰め対話」を行いました。対話の一部を報道機関に公開し、十三社二十六名に取材